

《評価指標データ》

博士研究員（PD）の受入状況
 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数
 研究誌発行状況
 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文数
 21世紀COEプログラムの採択状況
 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	特定研究プロジェクト研究センターについては、それぞれ目的にあわせた研究成果をあげており、共同研究の実をあげている。
☆ 小項目4.0.2	総合政策学部の学科増設にあわせて、研究科のカリキュラムやリサーチ・プロジェクトの改編を検討して、2011年度以降は、新たなカリキュラムで大学院教育の改善に努める予定である。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	特定研究プロジェクト研究センターの研究成果等については、研究科内で発表の機会を設けることで、総合政策についての共通理解を深め、新たな共同研究を推進する予定である。
☆ 小項目4.0.2	新しいカリキュラムの実施にあたって、その成果をモニタリングして、随時、修正を図っていく。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	産官学の共同研究の実をあげるため、リサーチ・コンソーシアムの活性化を目指して、会員制度の改定や情報システムの改善を進めた結果、2011年度以降新たな体制を発足することとなった。
☆ 小項目4.0.2	総合政策学部の学科増設等にもとない、研究科の教員数あるいはその研究分野も広がっており、総合政策等についての理解も含めて、教員間あるいは大学院生間の交流・議論の活性化をはかる必要がある。
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	2011年度以降、リサーチ・コンソーシアムについては、購読会員制度等を設けることで、自治体等の会員数の増加に努める。また、会員にメール・マガジンの形で情報を提供して、サービスの向上に努める。
☆ 小項目4.0.2	ドーナツアワーや学部研究会を通じて研究科内の議論を活性化するとともに、学外に向けては各種シンポジウムを通して研究成果の公開に努力する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述) 2011年度のカリキュラム改編にあわせて、研究組織についても大幅な再編が必要と思われる。従来にない組織再編によって、院生の進学数の回復、リサーチ・コンソーシアムの活性化が望まれる。

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○研究科内での議論の活性化、共同研究の更なる発展が期待されます。

【学内委員】

○特定プロジェクトセンターの立ち上げと見直し、研究会の開催、ドーナツアワーの開催などさまざまな試みがあることは評価されます。リサーチ・コンソーシアムの低迷が気になるところです。ぜひその活性化を実現していただきたいものです。

○研究組織は評価できます。後進を育てる役割もありますから、大学院への進学を促進することが望まれます。

○要素を視点にしたもう少し大きな観点からの説明があれば、なお全体像が分かりやすいのではないかと思います。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1

基盤評価：なし

達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

リサーチ・コンソーシアムについては従来の運営方針を全面的に改正して、新たな組織に作り直さなければならないと考えております。

★ 2012年度には、学部のカリキュラム改正を一段落させて、大学院のカリキュラム改正ならびに研究活動の活発化につなげていきたいと考えています。